

校種	<input type="radio"/> 小学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 義務教育学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 特別支援学校
学校名	山江村立万江小学校
実践事例タイトル	学校休校中の児童支援 ～ケーブルテレビ放送・テレビ会議システムを活用して～
テーマ	<input type="checkbox"/> 授業でのICT活用事例 <input type="checkbox"/> 校務でのICT活用事例 <input type="checkbox"/> 情報モラル教育の実践事例 <input checked="" type="radio"/> その他
活用した機器等	ビデオカメラ・実物投影機・電子黒板

1 実施の概要

新型コロナウイルス感染拡大防止のために長期間にわたる休校期間中、本校で活用できるICT機器を使った学習支援を行った。新学期開始すぐの4月は、村内80%近くの家庭で利用されているケーブルテレビを使ったテレビ番組（番組名「おうち学校」）を放送した。「おうち学校」と並行して、5月から開始するテレビ会議システムを活用した遠隔授業のための準備を行い、5月始めに試験配信、その後、本格的な遠隔授業を実施した。

また、非常時に備え日頃から保護者向けメール配信システムを使って緊急連絡を行ったり、ホームページをこまめに更新したりして、情報発信に努めている。

2 ICT活用の視点

・ケーブルテレビ放送を活用

新学期が始まったが数日で再度休校となり、休校期間中の児童の学習支援のため家庭で視聴しながら学習できる20分の番組を制作し放送した。村内にあるもう一つの小学校とも協力し、番組内容が重複しないように気を付けたり、全職員で制作に当たったりできるように計画した。

ケーブルテレビに加入していない世帯や放送時間に視聴できない家庭向けには、パスワードを付けたYouTube配信で対応した。YouTube配信は、自由な時間に繰り返し視聴することができ、日中は学童クラブに行っていてテレビ放送を視聴できない低学年児童宅でも好評だった。

各学校の学級担任が制作したため、視聴している児童も普段の学校の授業と同じような気持ちで視聴できたようだ。また、入学後すぐに休校になった新1年生にとっては、担任が番組を進行することから、学校の雰囲気を感じられ学校再開を楽しみにしているようだった。

・テレビ会議システムを使った遠隔授業

5月から3年生以上の児童を対象に遠隔授業を行うことにした。4月末の登校日に、遠隔授業の方法について児童に説明を行い、タブレットパソコンを各家庭へ持ち帰らせた。インターネット環境がない家庭向けには、村が支援する形でインターネット環境整備をお願いした。5月始めに試験配信を行い、村内の他校と同時刻に実施しても支障はないか等いくつかの問題点を検証した。数回の試験配信をし、授業開始前の朝の会（健康観察等）を8：30～、遠隔授業を8：45～9：30にすることにした。

朝の会では、実際に顔を見ながら会話したり、生活の様子を聞いたりすることで、児童の実態把握がとてもしやすかった。家庭訪問もなかなかできない中で、貴重な時間になった。授業内容は学級担任が中心になって決め、専科担当や低学年担任も授業を担当した。また、担任外職員も、授業開始時に参加できていない児童への連絡係や機器等を操作する係を分担して担った。通常の授業通りとはいかないが、試行錯誤する中で遠隔授業でも伝えやすい内容や方法が少し見えてきた。

・日常的な情報発信

休校期間中は、家庭への連絡方法が限られていた。本校では以前から保護者へのメール配信システムを活用してお知らせをすることがあったが、今回の休校期間中もとても役に立った。確実に伝わっているか確認が必要な場合は、アンケートという形で返信いただく等の方法も取り入れた。また、メール同様の内容をホームページにも掲載していることを保護者へ周知し、こまめに確認していただくようにした。更に、多くの方に見ていただけるホームページになるように、日々の更新を怠らないよう職員で分担し、記事を掲載している。

3 ICT活用の効果

学校再開後に児童に行ったアンケート結果を見ると、遠隔授業に参加した8割以上の児童が「遠隔授業は役に立った」と答えている。その理由の中で一番多かった内容が「先生や友だちの顔が見られたから」だったことを考えると、これらの実践は休校中の学びの保障を目的として計画し実践したが、人とのつながりを感じる手段にもなっていたと言えるだろう。休校期間が長期化したため、学校再開後に登校を渋る児童が出るのでないか、新1年生が学校生活に馴染めるだろうかと様々な心配をした。「おうち学校」や遠隔授業があるため、決められた時刻に起き、よりよい生活習慣の維持に繋がったことも大きく関係していると考えられ、ICTを活用した様々な取組はそれら諸問題を防止する一助となったと考える。

4 今後の展開

学校では引き続きICTを活用した授業を続け、遠隔授業になった場合でも対応できる操作技術を児童に身に付けさせていく。特に、タイピング技術を高めることで、遠隔授業で聞きとりづらいことがあった音声での返答を、文字で（チャット機能等を活用して）素早く返答できるようにしていきたい。

また、行政や家庭とも連携し、インターネット環境整備をさらに進めていく。予算も必要で短期間では難しいが、今回の実践結果を保護者や地域の方へ広め、環境整備の必要性を理解していただきながら進めたい。